

・学館斗争は政治斗争である

今まさに全国五十数大学において学園斗争が勃発している。その発生あるいは大学機構改革の問題、学生の即時的諸要求であつたり、王者争であつたりとも知れぬ。しかし最近の続報、政府文部省の動向、発言者でも明らかなるごとく校内自ら学園斗争を政治的斗争に位置づけ、そこからいって政治的圧力を加え、学園斗争は今となってはもはや対等权力として対立し政府权力はその裏側を露骨に表わしている。現权力はそこまで追い込まれてきてはいるのだ。

学館斗争は單に明大内部に留まることのない、全世界的な斗争である。

明治大學において全国に生がけて輝てはいた學館はその位置の不明確であったにもかかわらず學館運動は常に全国の學館運動の先駆的位置にあつた。我々はここにおいて新たに學館運動を提起し、さらにこれを全国的に展開して行かなければならぬと考える。初期學館斗争—即ち平和と民主主義の理念に基いた建造物獲得論議であつたが、説会主義、法と秩序に集約され内容のないものであつた。またその會議内容が自治を守る塔、大學への自治の教授会より自治であると學生の自治は學館においてこれを守るの理論の破産がすなはち學内にとびこる改良主義へと表われて下さぬか諸決定は學生の努力の下で行われるものである。現在我々學生は社会的にどんな位置にあつたか、即ち產業構造は大學に知的労働者をへば量に要求し、大學はとくに生産地となつてしまふ大學併存の大企業の下請、耕耘を行つてゐる。今や我々は學内においても政治社会的に切り替えて運動をすることになつた。

學館斗争は久遠に徳く斗争である。

學館は解れどではないむしろ一つの大學生である。我々は學館を今や學校として扱つてその中で日々に生長らえるのではなく學館運動を通して我々の心に教育を行つて行くものである。さらには學生、金學館と結ぶし連合組織を持つた運動体として明大の位置を有するものである。すなはち、大學として求めし自己の权力を創出し、よりゆる权力と対等にしておくこれが惟意である。明大は學館運動を學館斗争と呼ぶ。學館斗争は自己尊重の教育を行つて行くものであるからにつけ此に明大は日々に續く斗争である。权力創造のための運動、理論、実践を通じて表わされる。内容として自己尊重を勝ち取れ、明大の確約を勝ち取れ！